

平成 30 年度 第 2 回 東金市地域公共交通会議 議事録

1. 日 時 平成 30 年 11 月 22 日 (木) 14 時 00 分～16 時 00 分

2. 開催場所 東金市役所 3 階 第 1 委員会室

3. 出席者 出席 19 名、代理出席 2 名、欠席 8 名、事務局 7 名、傍聴人 2 名

出席：川嶋委員、早野委員、大庭委員、小川委員、飯田委員*、吉井委員、
林委員、座古委員、佐瀬委員、石崎委員、相京委員、江畑委員*、宮澤委員、
小林委員、宇野(誠)委員、望月委員、宇野(英)委員、藤井委員、
岡澤委員(都市建設部長)

代理：川俣委員(池田氏)、中村委員(飛田社会福祉課長)

欠席：仲田委員、三須委員、土屋委員、小高委員*、檜垣委員、澤田委員、
青木委員(経済環境部長)、鈴木委員(教育部長)

※：新規委員

事務局：矢野企画政策部長、鈴木企画課長、山本主幹、猪野副課長、森統計調査係長、平野主査、
石田主事補

4. 会議次第

1 開 会 【進行：鈴木課長】

・会議成立の報告

委員の過半数の出席(19名出席)であり、東金市地域公共交通会議設置要綱
第7条第3項の規定により、会議が成立していることの報告

2 岡澤会長あいさつ

3 新任委員及び事務局紹介・・・委員名簿

4 議 事 【議長 岡澤会長】

・議事案件 (1)、(4)、(5) 平野主査、(2)、(3) 石田主事補より説明

- | | |
|--|--------|
| (1) 役員の選任について | 資料 1 |
| (2) デマンド型乗合タクシー利用実績について (H30. 4-9) 【報告】 | 資料 2-1 |
| 平成 29 年度福岡地区・豊成地区乗合タクシー利用者について | 資料 2-2 |
| (3) 平成 31 年度のデマンド型乗合タクシー運行について 【審議】 | 資料 3-1 |
| 協議が調っていることの証明書(案) | 資料 3-2 |
| (4) 市内循環バス 福岡路線・豊成路線利用実績について (H30. 4-9) 【報告】 | 資料 4 |
| (5) 平成 31 年度の市内循環バス運行について 【審議】 | 資料 5-1 |
| 協議が調っていることの証明書(案) | 資料 5-2 |
| (6) その他 | |

5. 閉 会

【概要及び今後の課題】

■ 議事

- (1) 役員を選任について (資料1)
監査委員 …… 源地区代表 座古英司委員 (会長任命)
- (2) デマンド型乗合タクシー利用実績について (H30.4-9) (資料2-1、2-2)
- (3) 平成31年度のデマンド型乗合タクシー運行について (資料3-1、3-2)
承認
- (4) 市内循環バス 福岡路線・豊成路線利用実績について (H30.4-9) (資料4)
- (5) 平成31年度の市内循環バス運行について (資料5-1、5-2)
承認
- (6) その他

○ デマンド型乗合タクシー利用実績について（H30.4-9）【報告】

資料 2-1、2-2

（事務局）

【資料 2-1、資料 2-2 について説明】

平成 30 年度上半期のデマンド型乗合タクシー実績について説明。また、循環バスで代用が可能と推測できる乗合タクシー利用者数についての調査の報告。

（委員）

事務局ではこの結果を鑑み、どのような判断をしているのかご教示いただきたい。

（事務局）

現状では乗合タクシーと循環バスの利用者には明確に差別化が図られていると判断した。

○ 平成 31 年度のデマンド型乗合タクシー運行について【審議】

資料 3-1、3-2

（事務局）

【資料 3-1、資料 3-2 について説明】

平成 31 年度デマンド型乗合タクシー運行について運行時間の変更についての説明

（委員）

先走りかもしれないが、後の議案で循環バスを土曜日運行する旨の審議がある。もし一方を増やすのなら乗合タクシーの方がいいのではないか。

（事務局）

循環バスについては地区からも休日運行の声が大きかったが実施出来ずにいた経緯がある。また、近隣自治体も土曜日運行を実施している自治体が多くなってきているため、今回土曜日運行を開始することとなった。乗合タクシーの変更については、現在予算の削減のため全庁的に事業の見直しを行っている状況である。そのような状況の中で乗合タクシー制度について持続可能にするための効率的な方法を模索し、このような形で提案した。

（委員）

ただでさえ赤字なのに循環バスだけ土曜日運行する意味が分からない。投資するならば、福岡地区と豊成地区をメインに走っている循環バスではなく、市内全域を公平にサービスを提供できる乗合タクシーにするべきではないか。

（事務局）

現状循環バスの休日運行の意見が多数出ていること、近隣自治体で休日運行をする自治体が多くなってきたことなどの状況を鑑みて、循環バスについて拡大していこうという考え方になった。乗合タクシーについては、このサービスを頼りにしている利用者も存在しているため、今後も持続可能な事業体系を目指すための事業見直しとなる。どうかご理解いただきたい。

（委員）

土曜日運行のことも関わってくるため、循環バスの説明について先に聞きたい。

(議長)

循環バスの説明を先に聞きたいという意見が出たため、本議案についての審議は保留とし議事を先に進めたいと思う。2件の審議案件については説明を聞いた後、それぞれ一括して賛否を問うというような進行をさせていただきたい。

○ 市内循環バス 福岡路線・豊成路線利用実績について (H30.4-9)【報告】

資料4

(事務局)

【資料4について説明】

平成30年度上半期の循環バスの利用実績についての説明

《質疑なし》

○ 平成31年度の市内循環バス運行について【審議】

資料5-1、5-2

(事務局)

【資料5-1、5-2について説明】

平成31年度市内循環バス土曜日試行運行の開始及び運賃改定についての説明

(委員)

運賃だが障がい者は平日無料、土曜日は100円といった認識でよろしいか。

(事務局)

平日と同様に土曜日運行する計画となっており、障がい者運賃に関しては平日と土曜日は変わらず100円である。

(委員)

障がい者から運賃を収受すると決めた理由は何かあるのか。

(事務局)

さまざまな事例を調査した結果、障がい者の方から運賃を収受している事例が多くあったため、このような判断となった。近隣の自治体でも通常運賃の約半分を収受している団体が多くあった。

(委員)

土曜日営業している医療機関が多いと記載されているが、その場合、医療機関は平日休みの場合が多い。土曜日営業の理由はサラリーマンが通院しやすいためであり、平日行ける利用者は平日に通院しているため土曜日運行の理由にならないのではないかと。土曜日運行するのであれば、全ての地区が平等に利用できる乗合タクシーを運行すれば良いのではないかと。また、近隣自治体での運行状況を鑑みての判断と説明されたが、費用については無視するのか。先ほど東金市は財政が厳しく経費削減をしないといけないと説明されたが、ならば近隣自治体が運行しているからということでは理由にならないのではないかと。

(事務局)

1点目については、利用者の生活が多様化しており必ずしも土曜日休暇ではないと考えられる。また、例として医療機関の営業日を挙げたが、それ以外にも外出に際して土曜日に開催される行事などの参加も可能になると考えている。2点目の費用面については料金を上げ

ることで財政状況が厳しい中でも予算化ができると判断した次第である。乗合タクシーについてだが、東金市は他にも福祉タクシーや介護タクシーなど様々なタクシー事業を実施しており、現在各課と事業の整理や調整を始めている状況である。第2次東金市総合交通計画の見直しの際は、利便性を維持したまま持続可能な制度にしていきたいと考えている。

(委員)

乗合タクシーの変更については整理がついてから提案するべきではないか。バスについては1日あたりの費用が50,000円として、土曜日の運賃収入は18,000円であると資料から読み取れる。つまり、土曜日運行1日あたり32,000円の赤字が発生する。申し訳ないが福岡地区と豊成地区のためだけに市はそこまで負担をするのか。先ほども言ったが、他地区にはメリットがないため循環バスを土曜日運行するならば、市内全域運行している乗合タクシーも土曜日運行していただきたい。

(事務局)

乗合タクシーについて土曜日運行を実施しないというわけではない。市のタクシー事業で重なっている部分があるので整理して進めていきたいと考えている。ご理解いただきたい。

(委員)

循環バスについて乗客について制限している訳ではなく豊成以外の地区の利用者もいるということをご理解いただきたい。高齢者は土曜日には家族を頼ることが出来るという意見もあるが、病院などは待合に半日ほどかかってしまうことも多いので家族に頼みにくいという意見も多々ある。値上げするが利便性も向上すれば利用者が増えると考え、市からの提案を1年間の試行運行という形で受け入れた。

(委員)

福岡地区では、値上げは仕方ないが障がい者運賃の件については障がい者団体にきちんと説明し了解を得た上で実施するべきであるという結論に達した。また土曜日運行についてだが、現在福岡地区では単身世帯が増えてきている。そのような状況の中で土曜日運行は非常に重要である。アンケートだけでなく地域の中でも土曜日運行を歓迎する声が挙がっている。

(委員)

循環バスだが運賃値上げをした場合の収支率の見込みをご教示いただきたい。

(事務局)

変更前と変更後で約20万円の支出増にはなるが、ほぼ現行予算に近い形でおさまると考えている。

(委員)

値上げによって平日利用者数は減るという見込みで試算しているのか。それとも同数で試算しているのかご教示いただきたい。

(事務局)

平日利用者数は平成29年度の実績人数と同数で試算している。

(委員)

循環バスの土曜日運行について市の負担の増加はほぼないという認識でよろしいか。また、循環バスは路線沿線の地域住民に対してのサービスであるため、それ以外の地域にはまった

くサービスになっていない。行政として地域の足の確保はどのように考えているかをご教示いただきたい。

(事務局)

市の負担についてだが、負担増については約 20 万円であり、影響はほぼないと判断している。循環バスは福岡や豊成は民間路線が休止し、代替路線として地元で検討委員会を立ち上げた上で行政が運行しているといった経緯がある。地域の足の確保についてだが、現在の交通網を持続的に維持していくことには重きを置くべきであると市長も考えている。考え方について具体的なことは言えないが、市民の移動手段は守らねばならないと考えており、それを踏まえて計画の整理などを行っていく。

(委員)

日吉台ではバスを残そうと努力してきたが便数が減少してきている。循環バスが土曜日運行を始めるならば、民間バス路線を廃止して循環バスを走らせたほうが良いという議論が出てくる可能性がある。先ほども意見が出たが土曜日運行の理由の一つの土曜日開院している病院が多いということは理由にならないと考える。それならば平日の便数を減らすなどの議論になるはずである。また、家族を頼れないという意見もあるがそれは他の地区でも同様であり、他地区のことを考えていない論理である。東金市としてきちんと交通課題を認識しないと定住人口の減少に繋がる。一意見として受け取ってほしい。

(委員)

循環バスの 1 日当たりの費用をご教示いただきたい。

(事務局)

1 日当たり 51,917 円となっている。

(委員)

それだと先ほど提示された支出増額と合わないと思うが根拠をご提示いただきたい。

(事務局)

情報を整理する時間をいただきたい。

(議長)

情報を整理する時間を含め 10 分間休憩をとらせていただく。

《休憩》

(議長)

議事を再開する。事務局は先ほどの質問の回答からお願いしたい。

(事務局)

支出増額については平成 29 年度の実績額と平成 31 年度の支出見込み額の差分から算出している。平成 29 年度の実績だが、委託料の実績が 12,669 千円、運賃収入の実績が 2,625 千円、差し引きの運行コストが 10,044 千円となっている。続いて平成 31 年度の見込み額だが平成 29 年度実績を元に算出しており、委託金額が 15,405 千円、運賃収入の見込みだが、利用人数について平日は平成 29 年度と同数、土曜日は平日の 8 割で算出し、合計で 5,140 千円、差し引きの運行コストは 10,265 千円となっている。平成 31 年度見込みの運行コスト

から平成 29 年度実績の運行コストの差分である 221 千円が見込みの支出増額である。

(委員)

循環バスの土曜日運行には賛成である。ただ丘山や源などの地区においては循環バスが運行していない。東金市の今後の計画においては、高齢者や交通難民の増加に対応するために市内全域に循環バスを運行することを考えていかなければならない。現在は循環バスと乗合タクシー両方が利用できる地域と片方しか利用できない地域が存在しており不平等である。まずは、土曜日運行について 1 年間の実証運行を実施し、経過が良ければ市内全域に循環バスを運行する計画を作成していただきたい。

(事務局)

おっしゃる通り、これから公共交通を頼りにする方は増加すると思われる。そのような方々が困らないように交通網を充実させていくことは必要である。公共交通には様々な形態があり、それを上手く混在させていく計画を作成していこうと考えている。

(委員)

公共交通に関連してだが、桐生市で電気バスが運行していると NHK でクローズアップされていた。運行コストが 19 万円で車検も不要であり、運行会社は非常に繁盛していると言っていた。日本全国が環境問題への対策のため、燃料も石油などから電気に移行している。ぜひご検討いただきたい。

(委員)

藤井先生にお聞きしたい。循環バスの値上げは運行当初から一度も行っていない。他自治体で値上げにより利用者が減少した、あるいは上手くいったなどの事例があったらご教示いただきたい。

(委員)

まずは事務局に質問がある。予約不成立件数の減少の理由として予約システムの改善を行ったとあるが、どのように改善したのかご教示いただきたい。

(事務局)

改善方法だが、システム上で算出される運行時間と実態の運行時間に差がかなりあると事業者から報告を受けた。その後、システム会社の実態の運行時間を記載した資料を提供し、システム上の運行時間を実態の運行時間に合わせるような改善をした。

(委員)

37 件の予約不成立については、5 号車等の応援車を充てることができなくて予約不成立になったのか、そもそもキャンセルをした予約不成立か次回会議の際でもいいのでご教示いただきたい。本題に移るが、審議案件についてこのような形で提示されて、様々な混乱を招いているなというのが率直な感想である。まず、このような計画を推進するために、交通計画を作るという話があったが、公共交通を含めた市全域の考え方を示した資料を提示し、かつどの段階を議論するかを提示しなければ理解は得られない。さきほどの意見の中にも循環バス路線をさらに増やせばいいという話があったが市の公共交通の枠組みから考えるとおかしな議論である。鉄道やバスなどの公共交通は成り立つことが第一条件である。市の計画論の中で民間バス事業者のバス路線が維持できるか、維持できない路線は欠損補助などを行い、

民間バス路線を補助路線として運用するのかという位置づけを明確にするべきである。民営化したので民間バス事業者が利用者が少ない路線から撤退したとしてもやむを得ない。その中でも利用者がいるので不採算路線だが地域の足の確保のためサービス水準は落ちるが、循環バス路線を計画するといった段階的な計画が必要となってくる。乗合タクシーを増やすという考え方だが、東金市では乗合タクシーが民間バス路線や循環バス路線と経路が重複してしまい交通手段の取り合いが発生する交通形態になり公平性を欠いてしまうことが問題であると考えている。ただ冒頭の資料で循環バスと乗合タクシーの運行網は重なっているが利用の差別化は図られているとの理解は成り立つ。しかし、全市的にこの方向性が上手くいくかどうかは継続していかなければわからない。その中で出てきた循環バスの土曜日運行案をどう理解するべきかが問題である。将来計画の中で市民サービスをバス路線という定時定路線形態で実施していくという考え方を市が持っており、地域の中に土日運行が成り立つかを検証するために実証運行を実施するというような推察は出来る。ただ事務局が計画として全体像を見せないと理解は得られないと思われる。ある程度の推察はできるが今回の事務局のやり方は乱暴であったという印象は持つ。運賃の改定の話だが、これから運賃値上げをする自治体は増加してくると思われる。なぜなら、循環バス路線は基本的には民間バス路線の撤退した地域をフォローする路線なので儲からないからである。まずは運賃を上げて住民に利用していただく、利用しないと公共交通は無くなるということを住民に理解していただきながら計画作りをすることが重要になってくる。消費税増税に際して、今まで運賃値上げを行ってこなかった自治体が運賃値上げをせざるを得ないという声が挙がっている。障がい者運賃についてだが、移動を担保したので、その応分の負担は健常者であり障がい者であり負担すべきであるといった考え方があっていいと思う。また障がい者運賃を0から上げることに抵抗感があるかもしれないが、実際にバスで移動しているため理解をしていただくしかないと感じている。先ほど頂いた質問の回答になるが、運賃値上げで成功しているかどうかの判断は難しい。運賃といっても民間バスの初乗り運賃程度で実施しているところもあれば、デマンド型などはその2倍以上の運賃を収受しているところもあり運賃格差が出てくる。あとは家計費や年金の中でどこまで出せるかという議論になってくる。事務局は運賃値上げした後の平日利用者数は値上げする前の10割という判断をした。通勤利用の場合はたしかに10割見込めるが、老後世帯などの利用の場合は10割は厳しい。実証運行ということなので利用者数の増減についてきちんと検証すべきである。現状どの自治体でも運賃値下げは厳しい状況となっており、柏市でもワンコインバスを復活させようという声があるが、現実的には値上げをするしかないという行政担当者の話もある。値上げに関してはどこまで応分の負担ができるかどうか、利用者の満足度が得られるかどうかを事務局が地域に入り込んで丁寧に調査するしかない。全体像の話になるがトップダウン型の計画とボトムアップ型の計画のどちらも大事だが、ボトムアップから実行すると個別メニューの計画案が多く出来てしまい地区毎に公平性が保てなくなる恐れがある。トップの方からの計画論を作り、そこから下地を作っていくことも大事である。時間的なタイムが違うのであれば、最初の結果が他の地域にどう波及するかを含めての計画作りを検討していただきたい。

(議長)

今まで出たさまざまな意見を踏まえて本会議の方向性や結論を整理していきたい。まず議事(3)平成31年度のデマンド型乗合タクシー運行について本件の内容で承認いただけるかお諮りしたい。

《承認》

(議長)

続いて議事(5)平成31年度の市内循環バス運行について本件の内容で承認いただけるかお諮りしたい。

《承認》

【その他】

(委員)

前回の台風で電車が止まったときバスで千葉に向かったが、丘山小学校のバス停はちばフラワーバスしか停車しないので非常に長い時間がかかった。九十九里鐵道のバスも停車していただくように市からお願いできないか。お互い京成グループなので話し合いでうまくできないものか。

(委員)

勉強させていただく。

(委員)

循環バスの運賃値上げ後についてだが、豊成路線と福岡路線を東金市役所前で乗り継ぐ場合に1路線分の運賃で乗れるというサービスを検討していただきたい。

(事務局)

1路線毎1乗車300円という考え方を取っている。ご理解いただきたい。